

# 後志地方におけるワイン・クラスター形成プロセスの調査研究

プロジェクト代表者: 穴沢 眞

研究目的	多くの醸造家が後志地方に参入している理由は何か？
研究方法	① インタビュー調査期間: 2014年7月～2015年2月 ② インタビュー調査対象: ワイナリー経営者・行政関係者(※新興産地の長野県も追加調査)
発見事実	後志地方は、ワイン用ぶどうの栽培適地であり、高度な技能を持つ醸造家が増加している。しかしながら、新参者はワイン業界の不文律(「他社のテリトリーを侵さない」)を破ることもあり、後志地方のワイナリー関係者は、喧嘩に近い関係である。このような産地内における喧嘩が、ワイン造りの多様性を生み出し、産地としての質的向上に貢献していることが明らかになった。
課題	① ワイン造りに対する情熱に温度差があること(→ 科学派ワイン vs 自然派ワイン) ② こうした温度差を解消するために、醸造家から大学での組織設立を要望する声が多い。 ③ ワイン業界は民間ベースの活動が主体となるため、行政機関によるワイン振興策に関しては、ワイナリー側はあまり期待していない。

図1 後志地方のワイン産業の全体像

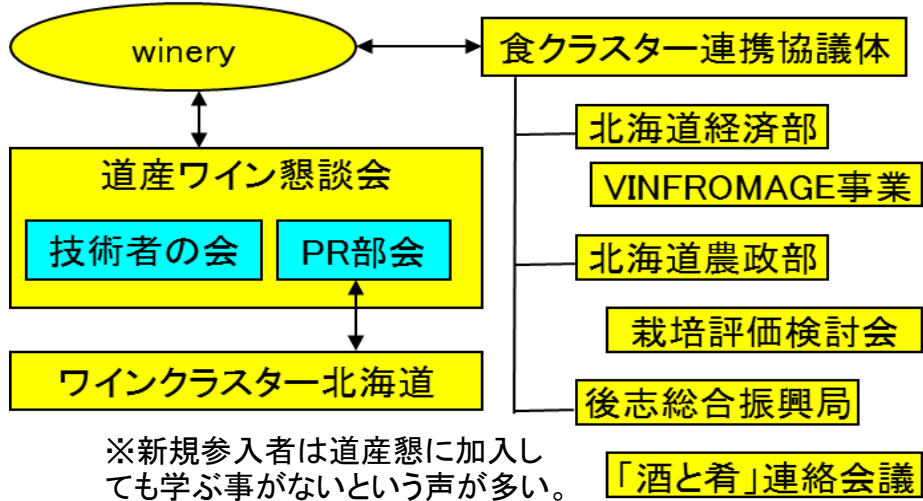


表1 インタビューリスト

ワイナリー	業界団体・行政機関
オチガビワイナリー	NPO法人ワインクラスター北海道
ドメーヌ・タカヒコ	小樽商工会議所
リタファームアンドワイナリー	北海道空知総合振興局
マンズワイン小諸ワイナリー	北海道後志総合振興局
井筒ワイン	余市町役場農林水産課
五ーわいん	北海道経済部食関連産業室
はすみふあーむ&ワイナリー	長野県観光課
	塩尻市役所ブランド観光課
<b>Total: 7</b>	<b>Total: 8</b>